

## 胆嚢結石症（たんのうけっせきしょう）（胆石）について

胆汁（たんじゅう）とは、嘔吐した時に混じっている苦く黄色い液体です。胆汁は肝臓で作られた後、胆嚢（たんのう）と呼ばれる嚢に一時的に蓄えられます。胆嚢はみぞおちの右側で肋骨の奥にあります。私たちが食事を摂ると胆嚢は収縮し、蓄えていた胆汁を総胆管（そうたんかん）という管を通して十二指腸内に分泌し、脂肪の消化を助ける役目をしています。この胆汁が固まって砂や石になった状態を胆石と言い、胆石のある病態を胆嚢結石症（胆石症）といいます。胆石の大きさや数は人さまざまです。

胆石があっても、症状のない場合もありますが、食後に胆嚢の収縮で胆石が胆嚢内を動いた時や、胆嚢の出口（胆嚢管：たんのうかん）で胆石が詰まった時などに、みぞおちから右肋骨下、右の背中にかけての鈍い痛みが起こることがあります。また、悪心・嘔吐や、脂汗を流し我慢できなくなるくらい強い痛みが出る時もあります。胆石があると胆嚢に細菌が繁殖し胆のう炎といって発熱することがあったり、胆汁の流れが悪くなって肝機能障害が起こったり、まれに黄疸になることもあります。

検査は、超音波検査（エコー検査）、MRCP、CTなどで診断します。

治療は、胆石が認められても症状のない人はほとんど経過をみています。しかし、何らかの症状がある人、無症状であるが胆嚢内に石が充満している人、胆嚢癌の疑いのある人は手術を行うのが良いでしょう。胆嚢を摘出しても、日常生活にはほとんど問題はありませんが、術後しばらくの間、脂っこい食べ物の消化が悪くなり下痢気味になる方がいらっしゃいます。

手術方法は石の部位、炎症の有無などにより異なります。

腹腔鏡下胆嚢摘出術（ふくくうきょうかたんのうてきしゅつじゅつ）：お腹に0.5～1.0cmの穴を4ヶ所あけ、カメラ（腹腔鏡）を挿入して胆嚢を摘出します。痛みが少なく入院期間も約7日間です。胆嚢結石症の大部分はこの方法で手術が可能ですが、すべての患者さまに可能なものではありません。

開腹下胆嚢摘出術：腹腔鏡下胆嚢摘出術が不可能な患者さまは、上腹部を切開し胆嚢を摘出いたします。入院期間は約10日間です。

困ったことがあれば、  
お気軽にご相談ください。

